



## おいしい野菜は健康な土づくりから 野菜ソムリエが地元野菜を試食

10月19日、県内外の野菜ソムリエ12人が土づくり農産物園地招待会に参加しました。この招待会は「健康な土づくり」の先進地として本市で行われたもので参加者はJA十和田やさい集出荷センターを訪れ、土壌診断機の見学や十和田おいらせミネラル野菜の特徴などを学びました。その後、市内農家の畑でねぎとごぼうの収穫体験を行ったほか、農園カフェ日々木で地元の野菜料理の試食や農家と意見交換を行いました。参加者は「生産者の声を聞いてよかった。十和田産の野菜のおいしさをPRしていきたい」と話していました。



十和田産の野菜を学ぶ野菜ソムリエの皆さん

## 次回は11月6日です 野菜が安い！好評の

### とわだ朝トラ市

10月16日、市役所駐車場で「とわだ朝トラ市」が開催されました。朝市には軽トラック15台が出店。元気な掛け声で長ねぎやにんにく、大根、なす、ごぼう、小松菜、りんごなどの農産物のほか、衣類などの日用品を販売しました。また、会場では馬肉と山菜を使用した「サンバ汁」が振舞われたほか抽選会が行われました。買い物客は「生産者の顔が見えるので安心して買うことができる」「いろんな農産物を見て周るのが楽しい」と好評。次回は11月6日の午前8時から11時まで行われます。



軽トラックの荷台に積まれた採れたての野菜

## 秋の駒街道を駆け抜ける 第15回駒街道マラソン



10月10日、「市民ひとり1スポーツ」の普及振興と健康増進を目的に第15回駒街道マラソンが開催されました。大会には県内外から約1,100人が参加。陸上競技場をスタートし、官庁街通りの駒街道をメインコースに2km、3km、5km、10kmの種目で競い合いました。当日は小雨交じりの中、参加者は沿道からの声援を受けながら完走を目指して一生懸命に走っていました。競技終了後は、陸上競技場でお楽しみ抽選会が行われたほか、参加者はお互いの健闘をたたえるなど交流を深めていました。



力走をみせた選手たち

## スイーツ親方を唸らせろ！ 十和田産品のスイーツコンテスト



10月3日、十和田富士屋ホテルで(社)十和田市観光協会が主催するスイーツコンテストの最終審査会が開催されました。このコンテストは長いもやごぼう、米粉、人参、そば粉など十和田産品の食材を使用し、市の名物となる土産品の開発を目的にしたものです。1次、2次審査を通過した10作品が最終審査に選出。審査員はスイーツ親方こと芝田山親方(元横綱大乃国関)を審査委員長に菓子職人や料理教室の主宰者など7人で行われ、入江まいさんの「長いもと人参のムース」がグランプリを獲得しました。



芝田山親方と記念写真を撮る入賞者の皆さん



## 馬が跳び、駆け抜ける躍動の2日間 馬の祭典「十和田駒フェスタ」

10月16、17日、中央公園緑地で十和田駒フェスタが開催されました。このイベントは十和田駒フェスタ実行委員会(宮野進会長)が主催する年に一度の馬の祭典です。

イベントでは、日本一を決める流鏑馬選手権が行われ、県内外から参加した選手50人が2日間にわたり初級、中級、プロ級に分かれて競い合いました。競技は180mの走路に50m間隔で3箇所のを設置し、3回の出走で上、中、下段の難易度の異なる的をめがけて矢を放ち、命中率とタイムを競い合うものです。タイムは初級の部で17秒、中級は15秒、プロ級は12秒の規定タイムを超えると無得点となります。プロ級では10秒を切る勢いで駆け抜け、まさに人馬一体の技が要求されます。走路を駆け抜ける馬上から放たれた選手の矢が的を射抜くと、観客から大きな歓声が上がっていました。

また、会場では日本初となる乗馬で5個の障害物を跳び越す十和田ジャンプ選手権や体験乗馬、ちびっこ乗馬ショーなどが行われ、来場者は2日間で約28,000人にのぼり、賑わいをみせていました。



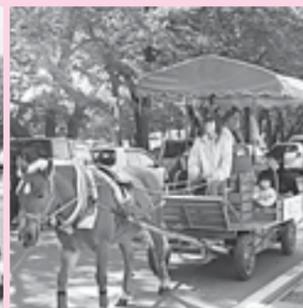
流鏑馬選手権



ジャンプ選手権



体験乗馬



馬車運行

## B級ご当地グルメの祭典B-1 グランプリin厚木 十和田バラ焼きゼミナールが8位入賞

9月18日・19日の2日間にわたり神奈川県厚木市で開催された第5回B級ご当地グルメの祭典「B-1 グランプリin 厚木」に出場した十和田バラ焼きゼミナールが8位入賞を獲得しました。このB-1 グランプリは地域に愛着を持ち、名物料理や郷土料理の「食」でまちおこしに取り組む団体やグループに出場権が与えられるもので、今回は北海道から九州地方までの過去最多の46団体が出場。2日間で43万人を超える来場者が詰め掛け、会場内を食べ比べしてお気に入りのB級ご当地グルメに箸を投票し、重さで順位を競い合いました。

十和田バラ焼きゼミナールは、十和田産にんじく入りの「ベルサイユの薔華つたれ」を使用した十和田バラ焼きにご飯をつけて300円で販売。初日の順位は13位でしたが2日目は「バラ焼きを食べてバラ色の人生を！」と声を張り上げて猛アピール。結果は2日間を通して1万食すべてを完売し、箸の重さは18,230gで初出場ながらも8位と健闘をみせました。



バラ焼きで十和田市の食文化をPRしたゼミナールの皆さん



テント前では生演奏を披露 バラ焼きに関心を寄せる報道機関